2025.10.16 会長時間より　「ロータリーの『親睦』と『寛容』」　　創立会長　諏訪昭浩

今日は、ロータリーが大切にしている価値観のうち、大切な 2 つの価値観をご紹介します。それは、「親睦」と「寛容」です。

まず「親睦」という価値観です。ロータリークラブに入会すると、よく「ロータリーは親睦が大切だ」という言葉を耳にします。「ロータリーの親睦と奉仕は車の両輪だ」という言葉もあります。ロータリーはもともと英語圏で生まれましたから、こういう用語はすべて英語の和訳です。ですから、元々の英語を見なければ、時にその意味が誤解されることも多々あるので注意が必要です。

では、ロータリーで「親睦」と訳された、もともとの英語は何なのでしょうか。それは、「フェローシップ」です。「フレンドシップ」ではないところが重要です。「フェローシップ」の和訳は、辞書には、もちろん「親睦、親交」という和訳もありますが、「仲間であること、仲間意識、連帯感」ともあり、僕はこちらの方がロータリーの「フェローシップ」を理解しやすいのではないかと思います。どういうことかと言いますと、「フェローシップ」というのは、単に一緒に遊んだりして親交を深めること、つまり「フレンドシップ」よりも、より次元の高い、仲間、連帯感という意味が強いということです。

ロータリーの親睦というのは、単なる「フレンドシップ」ではなく、もう少し次元が高い「フェローシップ」だということ。ロータリーの入門書にもここまでは説明してありませんが、これはよくご理解いただきたいと思います。ロータリークラブでは、飲み会をしたりゴルフをしたり釣りをしたり、一緒に遊ぶことがありますが、そのこと自体はロータリーの「親睦」ではなく、単に「フレンドシップ」です。もし、そこから、仲間意識、会員の誰とでも世間の上下関係に関係なく仲良くする意識が生まれるとしたら、それがロータリーの「親睦」ということになります。これが理解できないで、「ロータリーは親睦が大切だ」という言葉を聞くと、ロータリークラブに入ると飲み会や一緒に遊ぶことが大切なんだという誤った理解をすることになります。そうではありません。飲み会や遊びを仲間意識「フェローシップ」を高める機会にするならいいのですが、そうではなく単に一緒に遊ぶのであれば、それはロータリーの「親睦」ではありません。

では次にもうひとつ、「寛容」という価値観をご紹介します。「寛容の心」あるいは「寛容の精神」と言われることもあります。また、ロータリーでは、「ロータリーの寛容の心に免じてお許し下さい」という言葉をよく耳にします。

「寛容」という和訳のもともとの英語は「トレレーション」ですが、この和訳を「寛容」としたのは、「親睦」という和訳と違って上手な和訳だと思います。ではロータリーの「寛容」とはどんなものでしょうか。

実はこの「寛容」という言葉は、ロータリーの創設者であるポール・ハリスが使った言葉です。ポール・ハリスは、職業奉仕の父と言われるアーサー・フレデリック・シェルドンがシカゴロータリークラブに持ち込んだ奉仕概念を、クラブ内で強引に普及させようとして摩擦を生み、クラブの 2 回目の会長を任期途中で辞することになりました。その後、彼は、全米の 16 のロータリークラブを束ねる「全米ロータリークラブ連合会」という、今の「国際ロータリー」の前身になる団体を設立して、そこでこの概念を普及させたのですが、その連合会の機関誌第一号で、シカゴクラブに

おける自分の強引なやり方を反省し、「寛容」の重要性を訴えました。これがロータリーで「寛容」つまり「人を認める」ことが、重要な精神的柱になったきっかけです。

「寛容」とは「人を認めること」です。今、アメリカをはじめとして DEI という考え方が逆風を浴びていますが、ロータリーでは今でもこの DEI という概念をとても大事にしています。DEI の D は「ダイバーシティ」、つまり「多様性」です。ひとはそれぞれジェンダー、価値観、考え方、生き方、色んな事が異なります。ロータリーでは、こういう多様性を認めようということです。たとえ自分と異なっていても、「そういう考え方もあるんだな」と、他人を認め、それが自分と違うからと言って攻撃したり違和感を持たないという態度が、ロータリーの「寛容」です。

しかし、前回お話しした「四つのテスト」と同じで、それを理解することと実践することは全く次元の違う話です。「寛容」の大切さはみんなわかっていても、現実社会では他人に対して寛容になれない人が多いのではないでしょうか。自分と異なる他人を排除する、意見が異なる人に嫌悪感を持つ、同質の人ばかりで徒党を組む。よくある話です。しかし、我がクラブのウェブサイトには、「広島新世代ロータリークラブは、沼地に美しい蓮の花を咲かせようとする人々の集まりです。」と明記してあります。これは、現実社会を泥沼にたとえているのですが、その中にあっても、誰とでも仲良くするという理想を追求しようとする人が集まっている、という意味です。是非皆さん、まずはクラブの会員同士でそれができるように、自己研鑽をしていってください。それは必ず皆さんを取り巻く現実社会でも発揮できるようになるはずです。